

令和 7 年度
事務事業評価報告書

評価対象事業名：放課後子ども教室開催事業

令和 8 年 9 月

文教民生常任委員会

事業名：放課後子ども教室開催事業

1 事業の概要

放課後児童クラブ（学童保育）と連携し、地域住民の参画を得て、子どもたちに学習や体験・交流活動の場を提供する。学校の空き教室等を活用し、子どもたちが放課後を安全・安心に過ごせる居場所づくりを行うもの。

2 総合計画の位置付け

「第2次西脇市総合計画・後期基本計画」

第1章 未来を拓く次世代が育まれるまち

政策4 就学前教育と保育を充実する

施策3 放課後の居場所をつくります

3 事業の目的

健全育成の支援：子どもたちが放課後を充実して過ごせる環境を整備する。

体験機会の提供：地域資源を生かした多様な体験活動を通じ、創造性や社会性を養う。

地域の居場所づくり：地域全体で子どもを育てる体制を構築する。

4 主な活動内容

地域の実態や特性に応じ、外部講師やボランティア等の協力により以下のプログラム等を実施する。

文化活動：生け花、茶道、読み聞かせ

スポーツ：各種スポーツ、自然探検

その他：地域を生かした体験的学習

5 実施体制

担当部署：教育管理部 生涯学習課

協力者：各種団体、地域住民（指導員等）

6 事業予算 934,000円

7 市内の視察

文教民生常任委員会として、各担当委員で市内の放課後子ども教室開催事業の13事業について視察を実施

期間：令和8年2月2日～3月11日

- | | |
|--------------------|---|
| 1 楠丘小学校（読み聞かせ） | 場 所：体育館
参加者：11人（1～3年生）
内 容：詩や物語の絵本の読み聞かせ |
| 2 比延小学校（自然探検） | 場 所：視聴覚室
参加者：11人（1～2年生）
内 容：風船ロケット作り・飛ばし |
| 3 桜丘小学校（読み聞かせ） | 場 所：多目的ホール
参加者：8人
内 容：詩や物語の絵本を読み聞かせ |
| 4 芳田小学校（自然探検） | 場 所：運動場
参加者：6人
内 容：風船ロケット作り・飛ばし |
| 5 西脇小学校（読み聞かせ） | 場 所：図書室
参加者：13人（1～2年生）
内 容：物語の絵本の読み聞かせ |
| 6 総合市民センター（茶道教室） | 場 所：研修室
参加者：17人（1～6年生）
内 容：お茶会形式での作法や礼儀を学ぶ |
| 7 黒田庄体育センター(フットサル) | 場 所：黒田庄体育センター
参加者：36人
内 容：フットサル競技 |
| 8 重春小学校（よさこい） | 場 所：体育館
参加者：50人（1～6年生）
内 容：よさこい演舞、自由ダンス |
| 9 楠丘小学校（キンボール） | 場 所：体育館
参加者：10人（1～3年生）
内 容：キンボール競技（大きいボール） |
| 10 総合市民センター（生け花教室） | 場 所：研修室
参加者：17人（1～6年生）
内 容：花を生ける |
| 11 日野小学校（キンボール） | 場 所：体育館
参加者：21人（1年生）
内 容：キンボール競技 |
| 12 重春小学校（ふれあい体験） | 場 所：グラウンド
参加者：28人（1年生）
内 容：長縄跳び、ボール当て、フラフープ、
玉入れ |
| 13 日野小学校（読み聞かせ） | 場 所：図書室 |

参加者：5人（1～2年生）

内 容：物語の絵本の読み聞かせ

8 他市の視察

富山県砺波市「放課後子ども教室」での学習支援の取組について視察

学校や公民館を活用し、地域ボランティアが子どもに居場所と学習支援を提供する事業

目的：安心な居場所づくり、地域交流、学習支援

運営：地域住民・学校関係者の任意団体

【主な取組（各地区の自主学習支援）】

- 出町小「もくもくタイム」 対象者：小1～小2（月～金放課後）
- たかの子のびのび教室 対象者：小1～小2（火・木放課後）
- 雄神子ども塾 対象者：小3～小6（月・木/軽運動）
- 中野わくわく教室 対象者：小4～中3・高校生（月曜放課後）
- 般中応援自習室 対象者：中学生（月曜放課後・長期休暇）

9 事業評価

本事業の総合評価は「4（高い）」とし、今後の方向性は「拡充」とする。

委員会の平均評価は、妥当性 4.4、有効性 4.1、効率性 4.1と、いずれの項目においても高い水準にある。

地域住民の参画を得て、学校教育を補完する多様な体験活動を提供する本事業は、地域コミュニティの核として極めて高い教育的効果を発揮していると認められる。

教育的効果と人間形成の観点から、茶道や生け花等の伝統文化を通じた「礼儀・姿勢・感性」の育成や、読み聞かせによる知的好奇心の刺激など、学校の授業では得がたい学びが子どもの自立力や情操を育んでいる。

社会性と多世代交流の促進の観点から、スポーツ活動等を通じた協調性や他者への思いやりの醸成に加え、高齢者との交流は子どもの社会性育成と高齢者の生きがいづくりの両面に寄与している。

安全な居場所の提供では、放課後児童クラブ（学童）と連携し、放課後を安全・安心に過ごせる居場所を確保している点は評価する。

（課題）

参加機会の公平性の確保では、現状は活動時間が集団下校と一致せず、保護者の送迎が必須となっているため、家庭環境等により参加できる児童が限られている。誰もが参加できるよう、帰宅支援体制等の改善が必要である。

地域・学校間の格差是正では、実施メニュー（運動系・文科系）のバランスや実施数に学校間でのバラツキがあるため、全小学校への波及とメニューの最適化を図る必要がある。

（今後の方向性）

行政視察を行った富山県砺波市の「学習支援」の場としての機能を、本市におい

でも拡充することを提言する。

特に本市の課題である学力向上に対し、放課後の時間を宿題や基礎学力の定着に活用することは有効であり、地域の自治協議会等とも連携しながら、新たな「学びの場」としての展開を積極的に図るべきである。

10 各委員の市内の放課後子ども教室の取組所感

※なお、富山県砺波市及び石川県かほく市の行政視察報告書は別途作成

○藤原秀樹委員長

放課後子ども教室を見学させていただいて、高齢者と児童がふれあう機会ができていることが、児童にとっても、地域にとっても良いことだと思いました。放課後の遊ぶ場所もなくなっていき、体を動かす、話を聞くなど児童にとっての基礎づくりになっていると思います。

しかし、参加は保護者のお迎え又は放課後児童クラブの児童に限られており、誰もが参加できるよう改善が必要だと思いました。さらに、この放課後子ども教室で学力向上のための取組の場にもできないかとも考えます。

○藤原哲也副委員長

本事業は、地域住民の参画により学校教育を補完する多様な体験（文化・スポーツ・読書）を児童に提供しており、地域コミュニティの核として極めて高い教育的効果を発揮している。

文化活動においては、楠丘小学校の「読み聞かせ」が児童の集中力と知的好奇心を刺激し、総合市民センターの「茶道教室」や「生け花教室」では、伝統文化を通じて礼儀作法や身体規範、豊かな創造性が養われている。特に、継続参加によって「姿勢の良さ」といった目に見える成長が定着している点は、自立力を育む実践として高く評価できる。

スポーツ活動においても、黒田庄体育センターの「フットサル」や日野小学校の「キンボール」を通じて、技術向上のみならず集団行動における協調性や他者への思いやり、仲間との一体感が育まれている。多様な背景を持つ児童が共に汗を流し、楽しみながら社会性を学ぶ姿は、理想的な身体教育の具現化といえる。

総じて、本事業は「礼儀・姿勢・感性」を育む地域連携の優れたモデルであり、子どもたちの個性と自律心を伸ばす場として極めて有意義であると確認した。今後もこれらの取組を継続し、地域一丸となった健全教育を推進すべきである。

○藤本留実委員

今回、複数の放課後子ども教室（読み聞かせ、茶道・生け花、フットサル、キンボール、ふれあい体験）を視察し、それぞれの活動が持つ多様な教育的価値を実感した。

文科系の教室においては、日本の伝統文化や礼儀作法、季節感を学ぶ機会が提供

されており、児童の姿勢や集中力、表現力の向上につながっている様子が見受けられた。特に、茶道や生け花においては、日常生活にも活かせる所作や感性が育まれており、情操教育の観点からも、今後さらに充実させていくべき重要な取組であると感じた。

一方、フットサルやキンボールといった運動系の教室では、体力の向上にとどまらず、チームワークやコミュニケーション能力、他者への配慮といった社会性の育成が図られていた。年齢や経験の異なる児童が協力しながら活動する姿は大変印象的であり、学校教育だけでは得がたい貴重な学びの場となっていると強く感じた。

また、いずれの教室においても、地域の指導者や関係団体の協力により運営が支えられており、「地域ぐるみで子どもを育てる」という観点からも極めて意義のある取組であると評価できる。

その一方で、参加児童数の減少や保護者負担の存在など、継続に向けた課題も明らかである。これらの課題に対しては、周知方法の見直しや参加しやすい仕組みづくりに加え、行政としての支援体制のさらなる充実が必要であるとする。

放課後子ども教室は、学校教育を補完するだけでなく、子どもたちの成長を地域全体で支える重要な基盤である。今後は、現場の声を丁寧にくみ取りながら、より多くの子どもたちが参加できる環境整備と、事業の一層の充実・発展に向けて、積極的に取り組んでいくべきである。

○巽泰委員

複数の放課後子ども教室の運営を視察。西脇小学校では、18年の実績を持つボランティア団体「ブックママ」による読み聞かせが行われており、長年の経験に裏打ちされた情操教育の場が確立されていた。比延小学校の「自然探検・はっぱ会」では、風船ロケット作りなどの体験活動を通じて児童の創造性を引き出す取組がなされ、重春小学校の「ふれあい体験」では、スポーツ21等の地域住民との交流を通じて多世代が共に過ごす貴重な機会が提供されている。これらの活動は、放課後児童クラブ（学童）と連携することで、児童の居場所を単なる「預かり」に留めず、地域の教育資源を活かした「学びの有効活用」へと昇華させている点において極めて有意義である。特に、教室受講後にスムーズに学童へ移行する仕組みは、放課後の児童の安全確保と充実した時間の提供に大きく寄与している。

しかし、各校の運営において共通の課題も浮き彫りとなった。第一に、本教室の受講時間が通常の集団下校の時間帯と一致しないため、保護者による個別送迎が必須となっており、地理的条件や家庭環境によって参加機会に制約が生じている実態がある。第二に、低学年を中心とした活動現場では、一部の賑やかな児童の言動が全体の規律に波及し、プログラムの進行が著しく困難になるケースが確認された。

多様な学びの場としてこれらの事業を継続・発展させるためには、ボランティアの善意にのみ依拠するのではなく、安全な帰宅支援体制の整備や、現場での集団指導を補助する適切な人員配置、さらには指導員の負担を軽減するための組織的なバックアップ体制の検討が不可欠である。

○森脇久夫委員

桜丘小学校の読み聞かせは、高齢者ボランティアグループによるもので、「ふれあい」を目的に本事業を行っている、とのことであった。そのため、読み聞かせの時間でも、パソコン操作、書き取りドリル、読書をしている児童がいるなど、読み聞かせへの参加を強制せず、自分たちのやりたいことを自由にさせていた。その後のカルタ取りについては、ゲーム性が面白いのか、ほぼ全員が参加していた。そういったことから、児童の自主性に重きを置きながら世代間交流が主目的になっている運営になっていると感じた。

お茶と生け花については、学校の授業に無いもので、これらの体験のできることは、本事業の趣旨に沿ったものだと感じた。送迎にいられていた保護者に「本教室に参加でして子どもさんはどのようになったか？」と聞くと、「お茶では、姿勢がよくなったことや、礼儀作法が見についた」「お花は、母親の勧めで参加しているが、本人も花が好きで喜んで参加している」との話で、学校の授業とは異なる学びが子どもの成長に寄与しているとの受け止めだった。

また、フットサルは、基礎的な練習と試合形式でのコート内を走り回るかなり体力を使う競技形式のもので、指導を見ていると学校の体育の授業以上に激しいスポーツだと感じた。

いずれの教室も、学校での通常の授業にはないものであり、子どもの体験を増やし健全育成に寄与するものとして、放課後子ども教室事業の趣旨にそっており、今後も継続して運営していくことが求められると考える。

○吉井敏恭委員

放課後子ども教室は、地域ボランティアのもと学習や体験など「活動の場」が提供されている。2月4日・水曜日に芳田小学校の芳田自然探検（風船ロケットで遊ぶ）、3月4日・水曜日に重春小学校の重春ふれあい体験を視察しました。芳田自然探検では3人のボランティアに1・2年生の児童6人が参加。重春ふれあい体験では17人のボランティアに1年生の児童17人の参加がありました。参加児童からすると「おじいちゃん、おばあちゃん」のもと安心して遊べる（活動）場が提供されていました。

放課後子ども教室における世代間交流は、子どもの社会性の育成、高齢者の生きがいづくりに繋がる有意義なものであります。

視察前には、月1回、対象が低学年（1・2年生）であることから、もっと活動回数や対象学年を拡大すべきではないかと考えました。視察では、安全確保や言うことを聞かない子どもへの対応、活動の準備などボランティアの負担を考えると適切と判断しました。ボランティアの活動を継続していく体制強化を願うところであります。

○村岡栄紀委員

子どもにとってもスマホ社会が中心となってきた世の中で、放課後子ども教室は、非常に重要なアイテムであり、子どもの成長には必要不可欠であることを痛感しました。

読み聞かせでは、低学年でも高学年でも、自分で読むだけでは拾いきれない感情や場面の雰囲気や、大人が声に出して読むことで自然と受け取れるようになります。読み聞かせは、耳から物語を聞くため集中しやすく、絵本のイラストと合わせて想像を広げる体験にもつながります。また、読み手の声のテンポや抑揚を通して、文章の“リズム”をつかむ練習にもなります。このように、読み聞かせは、子どもたちが学校で学ぶ読書の基礎を支えるだけでなく、家庭で安心できる時間をつくる役割も果たします。

茶道は、私も大学時代に学ばせてもらいましたが、礼儀作法や美しい所作が身につく、集中力や精神の安定が得られます。子どもの頃から高校生ぐらいまで、落ち着きがないと言われていた私ですが、茶道を学ぶことによって、少しずつ礼儀作法を身に付け、集中力も養われたような気がします。また、四季の移ろいや日本文化への理解が深まり、日常から離れた癒しの時間を過ごせるため、心身の健康や自己成長にもつながります。

フットサルはコートが小さく人数（５人）も少ないため、ボールに関わる機会がサッカーに比べて約６倍多いとされています。パス、ドリブル、シュートの練習量が増え、基本技術が効率的に身につきます。また、スペースが狭いため、プレッシャーの中、瞬時に周囲の状況を認知し、次のプレーを判断・実行する力が自然と養われます。

このように放課後子ども教室は、普段の学校の学習をサポートするいろいろな要素がそれぞれの教室に含まれており、１つの教室に集中するのもよし、いくつかの教室を組み合わせながら学ぶのもよし、子どもにとって面白そうで取り組みやすいメニューを選択し、楽しみながら学ぶことによって、必ず学力向上につながる事業であり、今後も積極的な展開を期待するところです。

○林晴信委員

地域のみなさんとの交流という意味では問題は無いように思える。ただ、学習支援の取組が少しあっても良いのではないかと思います、特に全国学力学習調査の正答率の結果が思うように向上しない西脇市においては。

あと、学校によって取組みがバラバラなのは仕方ないとしても、運動系（体を動かす）と文科系の二つの事業があるのが理想ではないか。西脇小学校の規模で「読み聞かせ」という文科系しかないというのは奇異に感じる。

議会による事務事業評価

評価対象事業名	放課後子ども教室開催事業		
所管常任委員会	文教民生常任委員会	評価者	
基本政策	未来を拓く次世代が育まれるまち		
政策	就学前教育と保育を充実する		
施策	放課後の居場所をつくります		

事業評価

項目	評価 平均	評 価 内 容			
		理由（該当する項目を三段階で評価）			
		（○）良好・すべき （△）どちらともいえない （×）不良・すべきでない	○	△	×
妥当性	4.4	ア）社会情勢からみて実施すべきか	8		
		イ）一定の成果が上がっているか、引続き継続すべきか	7	1	
		ウ）行政で行うべきか（税金を使うべきか）	8		
		エ）他事業とサービスが重なっていないか	6	2	
		オ）他自治体と比べサービスの対象、内容が適切か	2	6	
		カ）市民全員のためになっているか	2	6	
有効性	4.1	ア）前年以前と比較し、事業効果は上がっているか	1	7	
		イ）事業目標が達成できているか	5	3	
		ウ）目標が達成可能な事業であるか	7	1	
		エ）目標が低く設定されていないか	2	6	
		オ）職員や外部からの人材活用が十分なされているか	6	2	
		カ）環境を保全する配慮がなされているか			
効率性	4.1	ア）コスト削減を考えたとき、実施方法は適切か	6	2	
		イ）提供するサービスの質を考えたとき、実施方法は適切か	5	3	
		ウ）地域、民間業者等に委託することが望ましくないか			
		エ）事業に投入された人員は適切か	1	7	
		オ）事業の合理化は図られているか	3	5	
		カ）受益者負担等は適切か			

総合評価	4	（事業評価に対する特記事項及び今後の方向性の理由） 行政視察を行った富山県砺波市の「自主学習支援」の場としての機能を、本市においても拡充することを提言する。 特に本市の課題である学力向上に対し、放課後の時間を宿題や基礎学力の定着に活用することは有効であり、地域の自治協議会等とも連携しながら、新たな「学びの場」としての展開を積極的に図るべきである。
------	---	---

今後の方向性 ※単年度事業以外はその理由を総合評価に対する特記事項に記載	○	拡充
		現状のまま継続すべき
		見直しのうえ継続すべき
		事業単位を見直し （統廃合・縮小のうえ継続）
		廃止

評価指標	
5	極めて高い
4	高い
3	普通
2	低い
1	極めて低い